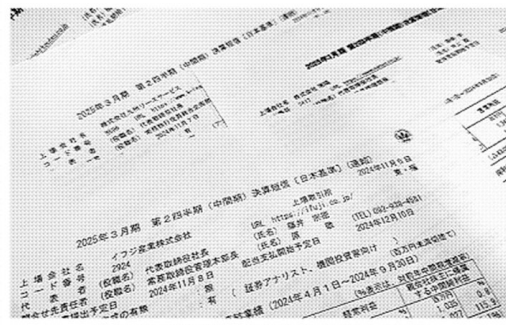


決算発表、取引時間中6割

九州・沖縄の上場52社 8社が前倒し

東京証券取引所が11月5日から取引時間を午後3時半まで30分延長したのに伴い、九州・沖縄の上場企業で4～9月期決算を取引時間中(場中)に発表する動きが広がった。延長以降に発表した52社を前年と比較すると、8社(15%)が取引終了後から前倒しし、22社(42%)が午後3時半前の発表を維持した。市場との対話を試みる企業が増えている。

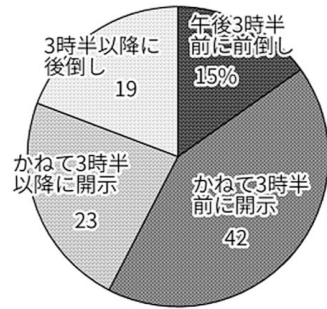
東証30分延長



東証の取引時間延長で場中に決算発表する企業が増えている

「日本は変えなすぎからイメージが固まっているところがある。色々試してみたい。東証の要請もしていいのでは」。液あり早めることにした。卵大手、イフジ産業の藤井宗徳社長は11月5日の2024年4～9月期決算記者会見で、開示時間について質問にこう答えた。23年は4～9月期決算を午後3時に開示したが、今回は正午へと3時間早めた。イフジ産業の担当者は「今までは場が閉まって九州・沖縄にある3月

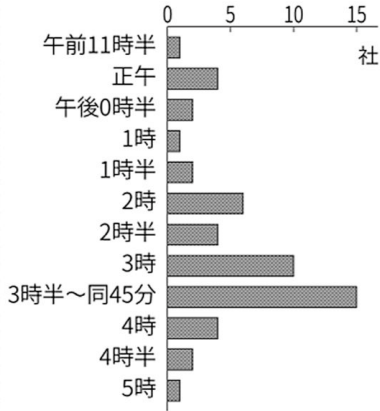
九州・沖縄企業の決算開示時間の動向



(注)24年4～9月期決算の開示時間。四捨五入のため合計は100にならない

九州・沖縄企業の決算発表時刻

(24年4～9月期、11月5日以降発表分)



期決算の企業のうち、東証の取引時間延長後に4～9月期決算を開示した52社では、ほぼ6割にあたる30社が取引時間中に決算発表する場中開示だった。前年は取引終了後だったが今年には場中に前倒しした企業も、イフジ産業や機械商社の南陽、タクシー大手の第一交通産業など8社みられた。

以前から場中に開示している機械商社のリックスは今年も午後2時に発表。同社は「適時開示を『直ちに開示する』という大原則に従っている。開示後に株価が上下することは想定されるが、時間内開示の観点で投資家から批判されることはないと考えている」と話す。一方で52社のうち19%にあたる10社は発表時間を午後3時半以降に遅らせた。前年は午後3時に発表したふくおかフィナンシャルグループ(FG)は午後3時半とした。今後の対応は「慎重に考える」とする。JR九州は前年は午後3時20分に発表したが、「25年3月期から発表時間を午後3時半に統一した」という。

今後の前倒しを検討する企業もある。ヤマエグループホールディングス(GHD)は24年4～12月期決算から場中開示に切り替える方針だ。開示直前に開いている取締役会の開催時間から見直すという。

開示時間は慎重に考えるべきテーマだ。時価総額が1000億円以上ある九州企業の首脳は「場中開示は会社側のメッセージが十分に伝わらず株価が形成され、値動きが荒れることもあり難しい」と本音を漏らす。一方で午後3時半以降に発表が集中すれば、投資家らが日中に開示内容を精査する時間が以前より限られる課題もある。福岡証券取引所に上場する九州企業からは「福証の記者会見の枠が取れず、開示時間を変えたことがある」との声も聞かれた。決算集中日には午後3～4時台を中心に開催希望が殺到し、取引所の会見場が埋まることも多い。適時開示の時間決定にも影響しているようだ。

ただ福証は「あくまで企業には決議から時間を置かず適時開示する、開示が記者会見時間より遅くならないよう実施することを求めている」と話しており、必ずしも開示と記者会見時間をあわせる必要はない。早めに資料を開示してから記者会見で改めてメッセージを発信するといった、慣例にとられない対応も一考の価値はありそうだ。(森匠太郎)